

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]			実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年	4年次
教員氏名	牧田 直子			学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	自己の探求心を生かしたテーマを選択し、卒論を作成し大学4年間の集大成とする。 卒業論文のテーマを確定し、研究結果の仮定を抽出、研究方法の妥当性を立証する。 既往研究論文の収集・読解、整理、と調査等から得られたデータを分析を行い、それらをまとめて中間検討を行う。 さらに継続して研究を深め、卒論発表会に臨み、充実した内容の卒論を完成させる。						
関連する科目							
授業の進め方と方法	個別指導						
授業計画	1. ガイダンス 卒論の形式と内容、提出する際の諸注意、卒論論文作成法について学びます。 要点の整理と課題解決のための手法を検討します。 2. 卒論のテーマと概要 卒論のレジュメと仮目次案を作成します。 3. 先行研究を確認する 既往研究を整理して自身の研究に不備がないか確認する。 4. 参考、引用文献一覧作成 資料を整理して、どの部分を使用するのかりストを作成します。 5. アウトラインの作成 研究の要点を整理してアウトラインを作成します。 6. 研究のチェック 研究の独創性、社会性などをチェックします。 7. 目次の作成 卒論の目次の作成 8. タイトルと「研究の背景と目的」の書き方 タイトルと「研究の背景と目的」の作成 9. 「研究方法」の書き方 「研究方法」法の作成 10. 「調査結果」の書き方 「調査結果」の作成 11. 「考察」の書き方 「考察」の作成 12. 「おわりに」の書き方 「おわりに」の作成 13. 卒論要旨の作成 卒論要旨の作成 14. 発表用資料の作成 パワーポイントで発表用の資料を作成 15. 発表の準備 卒論の再読と確認、発表練習、準備、質疑応答への対応						
授業の到達目標	卒論テーマについて、関連する既往研究論文を抽出し、研究の目的を達成するための確な研究手法を行い、分析、考察を行い、文書化する。プレゼンテーションを行う 【専門分野のスキル】【課題発見・分析・解決力】【プレゼンテーション力】【社会的責任・倫理観】						
授業時間外の学修	論文を執筆(目安時間4時間以上)						
課題に対する フィードバック	論文の訂正			評価方法	卒論研究への取り組みと研鑽、研究の組み立て、論理的思考、要旨の整理、論文の仕上がり、今後の展望を含めた論文について評価する(全体で100%)。		
テキスト							
参考書	各自、研究テーマに即した文献等						
備考							

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	山口 雅篤					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	園芸植物の品質特性の中で、特に嗜好性(色、味、香り)や機能性の成分特性について、卒業論文のテーマとして興味をもつ特性と園芸植物の材料を選び、これらに関する国内外の最新の研究成果及び研究室でこれまでに蓄積してきたデータを整理します。次に、選択したテーマに沿った実験マニュアルを作成して、実験材料の調製や機器の調整を行い、実験マニュアルに沿って実験を開始します。さらに、得られた実験結果について、園芸学及び植物生理・生化学的に考察を行って論文として取りまとめます。国の農研機構の花卉研究所と作物研究所との共同およびプロジェクト研究において体系化された植物成分の分析技術を教授します。								
関連する科目	植物学、植物生理学、生化学、園芸利用学、植物バイオ・育種実験も履修することが望ましいです。								
授業の進め方と方法	授業で配付する資料を全員参加して読み上げていただき、資料に関連する項目について、講義中に質疑応答を取り入れて行きます。授業計画の各回毎に授業の項目の意義や重要性を確認します。資料として教材に用いる写真や図は、出来るだけパワーポイントを用いて解説します。卒業論文の英語の引用文献にては、個別に翻訳の課題を課し、翻訳の指導を行います。								
授業計画	第1回 研究テーマの概要説明、第2回 研究テーマの選択 第3回 研究テーマの詳細説明、第4回 研究目的・背景の説明 第5回 関連論文の検索、第6回 関連論文の整理 第7回 関連論文の整理、第8回 実験マニュアルの作成 第9回 実験マニュアルの作成、第10回 実験マニュアルの作成 第11回 実験材料の調整、第12回 実験材料の調整 第13回 実験植物の栽培、第14回 実験植物の栽培 第15回 実験植物の栽培、第16回 実験植物の栽培 第17回 実験機器の調整、第18回 実験機器の調整 第19回 実験機器の分析法、第20回 実験機器の分析法 第21回 材料の収穫・調整、第22回 材料の収穫・調整 第23回 材料の観察・分析、第24回 材料の観察・分析 第25回 成分分析、第26回 成分分析 第27回 実験結果の取りまとめ、第28回 実験結果の取りまとめ 第29回 考察の取りまとめ、第30回 まとめ								
授業の到達目標	選択した研究テーマについて、研究の目的に沿った実験マニュアル作成、及びテーマに関連する情報の収集と整理の方法を習得することを目指す。また、実験マニュアルに沿って実験を行い、得られた結果の論文としての取りまとめの方法についても習得を目指します。さらに、実験結果のプレゼンテーションの方法についても習得できるように指導します。								
授業時間外の学修	【予習】 実験を実施する際は、約1時間かけて器機の点検と分析のシミュレーションを行って下さい。 【復習】 実験終了後は、約1時間かけて実験データの整理、反省、以後の実験計画の確認を行って下さい。								
課題に対する フィードバック	分析材料の課題を与え、学生が行った分析結果は、講義の前に複数で共に解析を行い、問題点を指摘指摘し合うようにします。			評価方法		提出された卒業論文を100点満点で評価します。			
テキスト	なし(必要に応じて適宜、参考資料としてプリントを配布します)								
参考書	植物生理学、ティツ/ザイガー著、培風館(2017) 植物色素実験法 植物色素研究会OMUP(2004) 研究室の卒業論文、園芸学会誌、園芸学会発表要旨、農芸化学会雑誌 植物代謝生化学 水谷正治ら編 羊土社(2019)								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次
教員氏名	陳 蘭庄					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)	
授業概要	本授業では、基本的に2つの部分に分かれて行うものであります。1つは理論的な部分で、主に研究室ゼミを中心に各自の卒業論文テーマに合う他の研究論文や研究資料などを取り上げ、集中的に勉強し、卒業論文を作成にあたり、研究の背景、実験手法や結果のまとめ方および考察の書き方などを習得します。2つは実践的な部分で、卒業論文研究を実施するには、具体的な実験手法を身につけて自分の研究テーマで実践します。それによって実験のデータを取り、論文の結果の内容の作成に使用します。よって卒業論文を作成することができます。この講義の内容は、これまで本研究室で実際に行っている研究内容なので、これまでに得られた研究成果を発表してきた学会要旨や学術論文を交えながら、グループ討議や、実際の発表した学術論文を使って、目標をはっきりさせ、実験計画の立案から、計画の実施、結果のまとめ、論文の書き方まで、リアリティをもって教育することをを行います。【知識・理解を応用し活用する能力】、【汎用的技能を応用し活用する能力】、【人間力、社会性、国際性の涵養(態度・志向性)】 担当教員について、中国河北省農林科学院経済作物研究所にて、河北省蔬菜遺伝資源の探索、収集、調査、評価および「河北省蔬菜品種誌」の編集に携わりました。科学技術特別研究員として農林水産省農業生物資源研究所と九州農業試験場にてアフリカから収集してきたイネ科牧草を用いてアボミクス性特異的遺伝子のクローニングとその構造解析を行いました。現場で培ってきた遺伝資源植物の扱い方や、苦労話、利用価値、重要性などについて、リアリティをもって学生に伝えたいと考えています。							
関連する科目	「植物育種学Ⅱ」を中心に、バイオ育種専攻の必須科目および選択必須科目を履修したうえ、蓄積した知識や学生実験で磨いたスキルを活用して総合的に卒業研究テーマを実施します。それに合わせて、「専攻演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を同時に実施します。							
授業の進め方と方法	「専攻演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を3年生の後期、4年生の前期と後期に分けて実施しながら、1)3年生の後期に、4年生に付いて研究テーマに関わる知識や技術の基本を学びます;2)4年生の前期、自分の研究テーマを実施します;3)4年生の後期、卒業研究を総仕上げるため、データとり、データ整理、卒論の書き上げ、卒業研究発表を行います。							
授業計画	実験に用いる植物の生育段階により管理・調査を行い、後半は取り纏めを主体に実施します。 室外実験系について 第1～4回 植物の育成・管理 第5～8回 発育ステージを追ってデータを調査する 第9～12回 収集した果実や栄養器官などを解析するため分析を行う 第13～15回 データをまとめて、卒論を完成する 室内実験系については 第1～2回 植物のin vitro育成 第3～4回 ホルモン処理によって植物再分化率を上げる 第5～6回 植物再分化系を確立する 第7～8回 外来遺伝子を用いて確立された培養系に遺伝子導入する 第9～10回 遺伝子組み換え植物を得る 第11～12回 外来遺伝子の検出 第13回 遺伝子組み換え植物の形質調査 第14回 データを調査・まとめ 第15回 卒論を完成する							
授業の到達目標	専攻生に専攻演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでそれぞれの課題を例にして解説したうえ、卒業研究で専攻生自身が自分の研究に対して、研究計画を立案し、材料および方法を用いて、実験を行い、取れたデータをまとめ、図表を作成し、結果に対する考察・評価などを行い、卒業研究論文を書きあげることが目標とします。							
授業時間外の学修	事前に配った資料やプリント、指定した教科書または参考書、本授業とかかわりのある新聞記事や科学雑誌等をもって、予習することを勧めます。また、授業の内容について、分かったことやわからなかったことをはっきりさせ、配られた資料やノートを再点検してわからなかったことを自ら解決します。それでもわからない場合、図書館から関連図書を調べたりインターネットを使ったりして解けるようにします。どうしてもわからない時は、先生に直接聞いてみる。わからなかったことを貯めることなく、すぐに解決することを勧めます。事前事後合わせて1時間程度が必要であります。							
課題に対する フィードバック	3年生の後期で相談して最終的に研究テーマを決めますが、合わない場合、テーマを変更します。4年生の前期で中間発表を行って進捗状況を評価します。最後の卒業研究発表会で卒業研究を総合的に講評します。			評価方法		卒業論文の新規性(20%)、内容(20%)、まとめ方(20%)、完成度(20%)、発表(20%)などを総合的に評価します。		
テキスト	特にありません。							
参考書	特に使用しません							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	杉田 亘					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	園芸育種学関連の講義及び専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験Ⅰ・Ⅱで習得した力を基に、園芸育種における各種問題点を抽出し、その問題解決のための実験研究に取り組みます【知識・理解の獲得】む。自己の興味を生かしたテーマを選択することができます。これにより大学4年間の集大成とします。園芸植物の遺伝育種に関する研究テーマとして、組織培養およびDNAマーカー利用技術による新形質の創出と遺伝解析、種間雑種作出法、植物体再分化、あるいは、育種学に関する独自のテーマを設定し、卒業論文研究を行います【知識・理解の獲得】。なお、卒業論文作成指導にあたっては、生産現場における普及活動や品種育成などの試験研究業務に関する実務者経験を活かした指導を行います。								
関連する科目	履修前に植物遺伝学、園芸植物育種学、園芸植物細胞工学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験、専攻演習Ⅰを受講していることが望ましい。								
授業の進め方と方法	育種学的テーマに基づき、関連論文の探索と収集、読解を行います。実験計画の策定、検討を行い、計画に基づく研究を実施します。得られたデータについて分析を行い、導き出した結果に基づき考察を加え論文文化を図ります。								
授業計画	第1～4回 卒業論文のテーマ設定：卒論テーマについて議論します。 第5～8回 関連論文の探索と収集・読解：テーマ関連情報の収集を行います。 第9～12回 実験計画検討：実験計画手法について検討します。 第13～30回 実験材料収集：実験材料の選定と収集を行います。 実験実施：実験計画に基づき研究を実施します。 データ収集：実験データを収集します。 データ解析：得られた実験データに基づきデータ解析を行います。 中間検討会：卒論実験に係る中間検討を実施します。 中間検討を踏まえての実験指導：中間検討に基づき実験計画の調整を行います。 実験継続・深化：調整後の実験計画に基づき実験を深化させます。 データ収集：実験データを収集します。 データ解析：得られた実験データに基づきデータ解析を行います。 第31～35回 論文・論文発表要旨作成：卒論および概要を作成します。 第36～40回 卒論発表準備および卒論発表：卒業論文を発表します。 第41～45回 卒論仕上げ：卒業論文を完成させます。								
授業の到達目標	実験前：専攻演習で得た知識をもとに、卒論の実験計画を立てます 実験後：材料および方法、結果を記載した実験ノートを作成し、データを分析します（計画に基づき定期的に実施）								
授業時間外の学修	自らが関心を持つ卒論研究テーマについて、これまでの研究論文を参考に、研究の目的を達成するため、独自の発想をもとに解決すべき問題に取り組み、実験データ解析の中から新たな事実を抽出し、考察し、明確に発表できる能力を習得します。								
課題に対する フィードバック	受講者自身の理解度の確認を行うとともに、適宜アドバイスをを行います。			評価方法		卒論研究への取組みと研鑽、実験の組立て、論理的思考、独自性、要旨の整理、論文の仕上がり程度、今後の展望を含めた論究について総合的に評価します。			
テキスト	育種学会誌 (Breeding Science, 育種学研究) 園芸学会誌 (The Horticulture Journal, 園芸学研究) 他								
参考書	植物育種学辞典 日本育種学会 培風館(2005)								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年	4年次	
教員氏名	山口 健一				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	「環境保全園芸学」に関する実験科学的な研究テーマを定め、その背景、実験手順・内容およびデータ解析の方法について習得することを目的とする。【知識・理解の育成】【汎用的技能の育成】							
関連する科目	専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ							
授業の進め方と方法	受講生が合意した卒論課題について、知識を得ながら実験・解析手法を修得する。卒業前に卒業論文を完成させる。本授業では、受講生と指導教員がディスカッションしながら問題解決型の体験学習とし、適宜プレゼンテーションを取り入れて行う。							
授業計画	授業は概ね以下の内容で進行する。 01. 授業の進め方 受講生の課題を決め、研究方法について学ぶ。 02. 共通基礎的手法の習得〔1〕 野菜園芸植物の取り扱いについて学ぶ。 03. 共通基礎的手法の習得〔2〕 花き園芸植物の取り扱いについて学ぶ。 04. 共通基礎的手法の習得〔3〕 果樹園芸植物の取り扱いについて学ぶ。 05. 共通基礎的手法の習得〔4〕 糸状菌の取り扱いについて学ぶ。 06. 共通基礎的手法の習得〔5〕 細菌の取り扱いについて学ぶ。 07. 研究中間報告 模擬研究の発表手法について学ぶ。 08. 個別高度手法の習得〔1〕 微生物の単離技術について学ぶ。 09. 個別高度手法の習得〔2〕 微生物の培養技術について学ぶ。 10. 個別高度手法の習得〔3〕 微生物の同定技術について学ぶ。 11. 論文作成ガイダンス 模擬論文の作成手順について学ぶ。 12. 論文作成〔1〕 自己研究の卒業論文を作成する。 13. 論文作成〔2〕 自己研究の卒業論文を完成する。 14. 卒業研究発表準備 卒論研究発表の資料を作成する。 15. 卒業研究発表 卒論研究の発表手法について学ぶ。							
授業の到達目標	「環境保全園芸学」に関する知識および研究手法について理解するとともに、当該分野における問題解決能力を修得する。【専門分野のスキルの獲得】							
授業時間外の学修	【予習】予め次回の課題をアナウンスするので、各自で予習を行う(1時間程度)。 【復習】授業で用いた研究課題について受講生各自で毎回復習する(30分程度)。 なお、不明な箇所は、必ず担当教員に質問して学びを深める							
課題に対する フィードバック	授業内で出た質問等については、補足及び理由を付して正答を示す。			評価方法		研究報告(50点)と論文提出(50点)で評価する		
テキスト	授業内容に関する資料・論文や参考となる図書を都度配布・紹介する。							
参考書	授業の進展にそって、関連する参考書や資料・論文等を適宜紹介する。							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年	4年次	
教員氏名	前田 隆昭				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	果樹園芸学分野についての研究テーマを各自で設定し、調査・研究をすすめていきます。調査・研究していく過程で、植物の栽培管理を徹底させます。その上で、研究データを整理し、卒業論文としてまとめることを目的とします【汎用的技能の育成】。							
関連する科目	3年次後期から4年次にかけての専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ							
授業の進め方と方法	卒論をまとめるに当たり、計画をたて、研究を進めていきます。その際に、専攻生各自に指導しながら、最終的に卒業論文をまとめさせます【汎用的技能の育成】。本授業は、一部プレゼンテーションを取り入れたアクティブラーニング形式とする。							
授業計画	下記内容で進めていく 1. 研究テーマの打ち合わせ 専攻生と卒業論文の研究テーマについて打ち合わせを行います。 2. 研究テーマの決定 専攻生と研究テーマを決定します。 3. 研究計画の立案 研究テーマに沿った研究計画を立案していきます。 4. 調査・研究 随時、調査研究を行っていきます。 5. 中間発表 中間発表として、プレゼンを行います。 6. 調査、研究およびデータのとりまとめ 随時、調査・研究を行いながらデータを整理していきます。 7. 卒論作成 卒業論文を作成していきます。 8. 卒論発表 各自卒業論文をプレゼンします。							
授業の到達目標	卒論テーマを主体的に選定し、調査・研究を自ら行い、内容をプレゼンテーションする能力を身につけます。 【専門分野のスキルの獲得】【汎用的技能の育成】							
授業時間外の学修	各自の卒論テーマに関連した専門書を読み、知識を深めて下さい。							
課題に対する フィードバック	卒論作成に当たり、随時指導します。			評価方法	以下の項目に基づいて評価します。 1)受講態度—30点 2)発表内容—30点 3)卒論内容—40点			
テキスト	特にありません。							
参考書	特にありません。							
備考								

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	平岡 直樹					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	卒業論文は、大学の4年間で学んだことの集大成と位置づけられます。 そして研究者として要求される知識・技能・計画性・情報収集能力・計算能力を主体的に運用、実践し、ひとつの成果として完成させることを目的とします。 地域や景観に関連するテーマを各自が選び、これまで学んだ知識や技術を駆使してひとつの成果をまとめあげます。 卒業論文執筆に必要な認識力や表現力ならびにプレゼンテーション能力を完成させることが期待されます。								
関連する科目	造園学概論に始まる造園専門科目群、専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱ、専攻演習Ⅲ、卒業論文が一連の授業体系を構成しています。								
授業の進め方と方法	専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱ、専攻演習Ⅲで学んだ研究や論文に関する知識や技術を基に、自らが選んだテーマについて、課題を設定し、調査や分析を進めます。最初は、テーマに沿った全体の構成を考えます。ある程度の調査が終了した10月頃に中間発表を行います。最終的に論文にまとめた後に、概要集を作成し、卒論発表会に臨みます。 毎回のテーマに沿ってまとめてきた課題を報告し、意見交換をするなどアクティブラーニング型の授業を行います。								
授業計画	1 ガイダンス 2 卒業論文とは(科学論文の一つであることの紹介) 3 卒業論文とは(いくつかの事例を参照) 4 卒業論文のテーマ選定(テーマの決め方と絞り込みについての注意点の説明) 5 目的と意義の設定(いくつかの事例を提示と演習) 6 既往研究のまとめ方(いくつかの事例を提示と演習) 7 調査対象地の説明方法(いくつかの事例を提示と演習) 8 調査方法の設定(いくつかの事例を提示と演習) 9 調査の実践(いくつかの事例を提示と演習) 10 調査の実践(いくつかの事例を提示と演習) 11 調査手法の検証(いくつかの事例を提示と演習) 12 調査の実践(いくつかの事例を提示と演習) 13 調査の実践(いくつかの事例を提示と演習) 14 分析方法の選定(いくつかの事例を提示と演習) 15 分析の実践(いくつかの事例を提示と演習) 16 分析の実践(いくつかの事例を提示と演習) 17 分析手法の検証(いくつかの事例を提示と演習) 18 分析の実践(いくつかの事例を提示と演習) 19 分析の実践(いくつかの事例を提示と演習) 20 学会参加(支部大会などへの参加) 21 学会参加(支部大会などへの参加) 22 学会参加(支部大会などへの参加) 23 結果の記述方法(いくつかの事例を提示と演習) 24 結論の記述方法(いくつかの事例を提示と演習) 25 参考文献のまとめ方 26 プレゼンテーション技術(図作成) 27 プレゼンテーション技術(表作成) 28 プレゼンテーション技術(パワーポイント作成) 29 プレゼンテーション練習(パワーポイント表現) 30 プレゼンテーション練習(口頭発表練習)								
授業の到達目標	卒業論文のテーマを主体的に選定し、課題設定、調査方法の検討、調査、分析、まとめを自ら行い、成果を他者に伝えるプレゼンテーション能力を身につける。【課題発見・分析・解決力】【プレゼンテーション力】【社会的責任・倫理観】【コミュニケーション力】【職人力】								
授業時間外の学修	第1回目の授業で示す参考図書など文章の書き方や卒業論文の執筆に関する資料を授業前に読んでおくこと。卒業論文に関しては、ゼミ報告で表現し議論する内容は氷山の一角である。その背景には何倍もの時間と手間をかけた作業や考察が存在する。少なくともゼミ報告の準備に4時間程度は不可欠である。								
課題に対する フィードバック	随時完成物を提出してください。必要に応じてコメントします。			評価方法		完成した卒業論文と発表会の内容により評価します。			
テキスト	配布する資料及び紹介又は指示する書籍								
参考書	論文の書き方に関する書籍を必要に応じて紹介または提示します。主なものを下記に挙げます。 白井 利明、高橋 一郎、よくわかる卒論の書き方、ミネルヴァ書房、2008 吉田健生、大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方、ナカニシヤ出版、2004								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科		
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○	
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	姜 暲求				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)			
授業概要	専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの集大成として卒業論文を書く。日中韓の農産物および食料品の流通、消費、貿易問題から一つ選び、指導を受けながら卒論を作成する。								
関連する科目	専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ								
授業の進め方と方法	ゼミ生が自らテーマを選び、教員の指導を受けながら卒論を作成する。								
授業計画	1. 論文の書き方説明 2. 関連論文サーベイ方法説明 3. テーマを選び、その理由と各自の問題意識を報告 4. テーマの修正または論文構成指導 5. 既往研究の論点報告 6. データサーベイ結果報告と利用可能性検討 7. 中間報告とコメント・指導 論文完成まで中間報告及びコメント・指導の繰り返す。								
授業の到達目標	自らテーマを見つけ、論文を書き、報告できる能力を養う								
授業時間外の学修	常にゼミ室で卒論を2時間ほど書く。								
課題に対する フィードバック	提出した課題はコメントし、返却する。			評価方法	テーマと内容・論文の完成度で評価する。				
テキスト	なし								
参考書	なし								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	廣瀬 大介					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	本科目は、受講生各自が与えられた研究テーマに沿って植物を育て、生育調査や各種成分分析等を行い、その結果を学術論文に準じた形にまとめ上げることを目的としています【汎用能力の育成】【志向性の育成】。具体的な研究テーマについては、研究室配属後に説明していきます。								
関連する科目	履修前に作物栽培学、作物学各論Ⅰ、作物学各論Ⅱのいずれか2科目を受講しておくのが望ましい。								
授業の進め方と方法	教員との綿密な打ち合わせ後は、各自が自発的に責任をもって研究テーマに沿った栽培、実験および論文作成を行います(必要に応じて教員がアドバイスをを行います)。								
授業計画	1. 研究テーマの決定 2. 研究内容の打ち合わせ 3. 研究に関する各種分析方法の教授 4. 研究の中間報告 5. 卒業論文の草稿 6. 卒業論文のまとめ 卒業論文を学術論文と同程度に仕上げていくことを学びます。								
授業の到達目標	1つのプロジェクトを行い、まとめていく方法を学びことを目標としています。								
授業時間外の学修	各自の卒業論文のテーマに沿った論文や著書を日頃から集め、内容を理解してください(必要な時間は各自異なるので指定はしません)								
課題に対する フィードバック	提出された卒業論文に対して講評します。			評価方法		卒業論文に対する取り組み態度(40点)と論文の内容(論文が学術論文形式にどのくらい沿っているか)(60点)			
テキスト	使用しません								
参考書	大学生のためのレポート・論文術、論文の教室 レポートから卒論まで								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	菅野 善明					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	植物病理学に関連する科目や植物バイオ・育種専攻の演習および実験、研究室で学ぶ専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだ知識や技術を基に、実際に現在、植物病理学分野で問題となっている病害の原因病原体の分離・同定や植物病原体の増殖を抑制する拮抗微生物の探索を行い、実際に圃場レベルでの病害防除効果を検証する。これらを進めるため、関連する文献を自分で検索し情報収集を行い、より正確で効果的な分離・同定についての実験計画を立案し、実験に取り組む。実験実施に当たり、それぞれの実験方法を理解し、あらかじめ実験を成立させるための計画・準備・実施できる能力を習得。また、実験によって得られたデータの取りまとめ、解釈、判断し結論を導き出す能力、考察する能力、論文としてまとめる能力を養い身に付ける。【知識・技能の育成】【コミュニケーション能力の育成】【課題探求能力の育成】								
関連する科目	微生物学、植物病理学、植物バイオ・育種演習、植物バイオ・育種実験、総合防除論および専攻演習Ⅰを習得していることが望ましい。専攻演習Ⅱと専攻演習Ⅲを履修することが望ましい。								
授業の進め方と方法	卒業論文のテーマの背景・計画をこれまでの知見を精査します。実験を行うにあたり、実験を行う前に目的、方法、材料、結果のまとめ方を相互に確認します。結果についても相互に確認し考察を深めるとともに、次に必要な実験計画を立てます【知識・技能の育成】【コミュニケーション能力の育成】【課題探求能力の育成】。								
授業計画	次の手順に従って卒業論文に作成に取り組みます。 1～4 情報収集 現在、問題となっている植物病害について情報収集を行ってもらいます。 5～8 研究テーマの選定 収集した情報の中で関心のあるテーマを選定してもらいます。 9～12 実験計画 選定したテーマを実施・遂行するための実験計画を立ててもらいます。 13～30 実験の実施 計画に基づき実験をしてもらいます。 31～35 実験結果の分析と見直し 実施した実験の結果の解析と必要な次の実験を計画します。 36～40 検証実験 新たに計画した実験を実施します。 41～45 卒業論文作成 行った実験結果をとりまとめ、卒業論文を完成させます。								
授業の到達目標	・卒業論文を通して、情報収集、収集情報の整理による研究課題設定能力を高める。 ・自律的に学ぶ素養を習得する。 ・卒業論文作成を通して、文章能力・図や表の構成能力を高める。 ・報告・発表会を通して、プレゼンテーション能力を高める。								
授業時間外の学修	【予習】卒業論文(研究)のテーマを遂行するために必要な情報(論文)を収集し、精読します。 【復習】行った実験についてはその結果から何が言えるかを考察し、次の目的を明確にし実験計画を立て、実験を実施します。								
課題に対する フィードバック	卒業論文への取り組み方、提出卒業論文の内容、発表等を総合的に評価します。(100点)			評価方法		卒業論文への取り組み方、提出卒業論文の内容、発表等を総合的に評価します。			
テキスト	卒業論文のテーマに関連した学術書等								
参考書									
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	川信 修治					学位授与の方針 との関連		DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)	
授業概要	蔬菜園芸学関連の講義および専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで習得した知識を基礎に、蔬菜園芸における各種課題を抽出し、その問題となる解決策のために実験に取り組む。自己の関心のあるテーマを選択することができる。これらの点から大学4年間の集大成として、蔬菜園芸と施設園芸に関する研究テーマを設定し、卒業論文研究を行う。								
関連する科目	園芸生産環境専門実習, 蔬菜専門実習, 蔬菜園芸総論, 蔬菜園芸各論, 施設園芸学								
授業の進め方と方法	授業は、1回目に1～15回目までの卒業論文作成の流れを説明して、各回ごとに配付資料を利用して、不足は板書で進めます。毎回メモ帳を準備して、卒業論文の準備と資料作成をします。								
授業計画	第1回 卒業論文のテーマ設定 第2回 関連論文の探索と収集・読解 第3回 実験計画と設計の検討 第4回 実験材料収集と材料の保管管理 第5回 実験の設置と実験実施 第6回 実験材料の収集とデータのまとめ 第7回 試料分析とデータの解析 第8回 中間検討会 第9回 中間発表会を終えての実験分析修正 第10回 中間発表会に終えてのデータ解析の修正 第11回 論文中間発表要旨作成 第12回 論文発表要旨作成 第13回 卒論発表会の練習 第14回 卒論発表会 第15回 卒論の製本								
授業の到達目標	卒論研究テーマについて、これまでの研究論文を参考にし、研究の目的を達成するため、独自の考えをもとに解決すべき課題に取り組み、栽培、分析、実験データ解析の中から新しい事実を発見し、分析し、さらに考察し、最後に明確に発表できる能力を習得する。								
授業時間外の学修	事前に卒業論文の課題を決め、内容を確認し、中間発表会と卒論発表会ができるように資料をとりまとめて3時間程度予習をする。終了後に訂正された箇所を修正し、復習をかねて1時間程度学修する。								
課題に対する フィードバック	卒業論文と資料作成は、提出ごとに解説します。			評価方法		卒業論文のまとめ(90点)、プレゼンテーションを利用した口頭発表(10点)で決める。			
テキスト	園芸学会雑誌および園芸関連学会誌								
参考書	生命科学論文まとめ方のコツ(久保ら 協同医書出版社) 流れがわかる学会発表・論文作成(佐藤ら メディカルレビュー社) 統計的多重比較法の基礎(永田ら サイエンティスト社)								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	日高 英二					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	緑化関連の講義で習得した知識を基に、問題点を抽出し、問題解決のための研究に取り組む。興味関心のある研究テーマを決め、関連論文の収集・読解を行い、研究計画を検討する。調査対象の調査を行い、得られたデータを分析するとともに検討を行う。中間検討の結果を基に補足調査をし、研究内容をより深めたものにする。それらの結果を論文形式にまとめ、その成果を他者が理解できるようなものに仕上げる。								
関連する科目									
授業の進め方と方法	定めた研究テーマに従ってデータの収集・分析を行う。得られたデータは、他者へ結果が理解できるような図表にして、プレゼンテーション資料とする。それらをまとめて卒業論文として仕上げる。得られた結果が解りやすい文章の作成能力を訓練する。								
授業計画	1 卒業論文のテーマ設定 2 関連論文の収集と読解 3 研究計画検討 4 対象地調査 5 調査実施 6 データ収集 7 データ分析 8 中間検討会 9 調査継続・深化 10 図表作成 11 結果整理 12 論文発表要旨作成 13 プレゼンテーション資料作成 14 卒業発表会 15 卒論仕上げ								
授業の到達目標	卒業研究をまとめることにより専門教育の集大成とする。								
授業時間外の学修	論文テーマに近い論文等を熟読し、文章作成能力を上げる。 図表作成・プレゼンテーションに必要なパソコンソフトの操作法を習得する。:週60分								
課題に対する フィードバック	卒業論文の概要を公表し、評価を得る。			評価方法		卒業論文100点			
テキスト	プリント等を配布								
参考書	専攻演習で読解した関連文献								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	関西 剛康					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	都市緑地、都市公園、庭園作品を含むランドスケープ全般を対象にし、造園学の見地から造園計画や継続的な育成・維持管理等について学び、研究します。 具体的には、卒業論文における研究の方向性について議論を行い、論文テーマを決定し、具体的な調査研究から研究成果を纏め上げるための指導を行います。 また、教員は技術士(総合技術監理部門、建設部門:都市及び地方計画)やRLA等の専門資格を有し、造園設計事務所において国内外の100件を超える都市公園や庭園プロジェクトに参画した20年間の経験があります。そのキャリアを含めて、教員が実際に計画設計した造園作品の具体的な事例を解説しながらも、授業を進めます。								
関連する科目	履修前に「専攻演習Ⅰ」、同時に「専攻演習Ⅱ」「専攻演習Ⅲ」を履修すること。								
授業の進め方と方法	基本的に授業は、アクティブラーニング方式によって実施して行きます。毎回の授業構成は以下のとおりです。 授業前半は講義をします【学術・知識のインプット】。 授業後半はグループ学習、ディスカッションや課題発表(問題解決学習、プレゼンテーション、日本造園学会九州支部での研究発表)等を行います【学術・知識の醸成とアウトプット】。								
授業計画	【前期】 第01回:卒業論文の概要説明と心得 授業のガイダンスと心得について授業を行う。 第02回:卒業論文テーマの検討 第03回:卒業論文テーマの設定 卒業論文テーマについて考える。 第04回:研究計画の立案 第05回:研究計画の精査と修正 研究計画と手法について考える。 第06回:先行研究の調査項目 第07回:先行研究の把握 先行研究の把握を行う。 第08回:実地調査(フィールドワーク)計画の立案 第09回:実地調査(フィールドワーク)の手法 第10回:実地調査(フィールドワーク)の精度 第11回:実地調査(フィールドワーク)の結果の分析 実地調査の結果を纏める。 第12回 進捗の確認と研究計画の調整 調査研究内容の精査や修正を行う。 第13回 調査結果・計画立案の中間まとめ 第14回 中間発表資料の作成 第15回 中間発表とその講評 中間発表についての纏めを行う。 【後期】 第16回:研究論文の執筆に関する基本的事項 第17回:先行研究の纏め 第18回:調査結果のデータ抽出 第19回:調査結果のデータ分析 第20回:各章の考察 第21回:総合考察 第22回:全体の纏め 第23回:全体の精度の向上 第24回:論文の要約 研究論文の執筆について指導を行う。 第25回:プレゼンテーション資料の作成 第26回:プレゼンテーション資料の修正 第27回:口頭発表の指導 第28回:口頭発表のまとめ 口頭発表について指導を行う。 第29回:卒業論文の総仕上げと確認 第30回:卒業論文の総括・講評 卒業論文の纏めについて指導を行う。								
授業の到達目標	1. 造園学における造園計画の知識と技術および論文執筆能力の修得が目的とする。 2. また口頭発表を通じてプレゼンテーション能力や、集団討論を通じてディスカッション能力を向上させ、総合的なコミュニケーション能力の向上を目的とする。								
授業時間外の学修	1. 授業で配布するテキストならびに参考図書等を授業前に精読しておくこと。 2. 授業後にさらに理解を深めるために再度精読すること。 3. 演習授業であるため、事前に参考となる資料を準備しておくこと。 4. 予習復習は1時間程度行うこと。								
課題に対する フィードバック	卒業論文は評価後、返却期間をもうけて返却ならびに解説をします。			評価方法		完成した卒業論文と口頭発表の完成度によって評価します。(100点)			
テキスト	テキストは使用しないが、その代わりに適宜プリント資料を配布します。								
参考書	1.『ランドスケープ研究』日本造園学会誌 2.『ランドスケープ研究作品集』日本造園学会誌 3.『ランドスケープデザイン』マルモ出版 など								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	長江 嗣朗					学位授与の方針 との関連		DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)	
授業概要	花卉の栽培管理・繁殖等について、材料および研究の方向性について論議を行い、卒業論文のテーマを決定する。また、実験植物の調査方法・解析方法等を指導する。次に、必要は実験方法を習得し、実際に研究を遂行する。さらに得られたデータをまとめる能力を身につけることを目指している。								
関連する科目	3年後期『専攻演習Ⅰ』、4年前期『専攻演習Ⅱ』、4年後期『専攻演習Ⅲ』、4年通年『卒業論文』								
授業の進め方と方法	卒論のテーマに従って、各自で実験を行う。また、実験によって得られた結果を元に、あらたな課題を解決するような実験を実施する。								
授業計画	卒業論文は個々人の進み方が異なるため、回数を決めて授業計画を立てることは難しい。そこで、概ね以下の授業計画で実施する。 1. 卒業論文のテーマの検討 どのような卒業論文を実施するのかを検討する。 2. 花卉の栽培 卒業論文が遂行を実施するために、まず植物の栽培を開始する。 3. 花卉の維持管理 実験ができるまで、植物が十分な大きさになるまで維持・管理を行う。 4. 研究テーマの遂行のための実験方法の検討 検討する卒業研究の内容に基づき、試験区を設ける。 5. 実験 実際に、実験を実施する。 6. 実験データの収集およびまとめ 実験期間中、調査を実施するとともにそれらをまとめる。 7. 実験データの解析 得られた実験データの統計処理等、データを解析する。 8. 卒業論文の作成 得られた実験データおよび同様の研究内容が記載された論文を考察しながら卒業論文を作成する。								
授業の到達目標	自分自身で課題に対して解決する能力と得られたデータを考察できるようになる。								
授業時間外の学修	卒論のテーマに関する著書、論文等を読んでおく。予習、復習に5時間。								
課題に対する フィードバック	適宜、相談あるいは議論をしながら進める。 。			評価方法		課題に取り組む姿勢、理解力、実行力、考察力、作成した卒業論文を総合的に評価する。			
テキスト	特になし								
参考書	特になし								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年	4年次	
教員氏名	新谷 喜紀				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	研究室活動の中心である卒業論文作成に向けて、実験や調査、またデータ整理や分析を行い、同時に汎用性の高いプレゼンテーション能力を身につけることを目的にします。 生き物の分類や生態に関連する研究テーマを決めて、野外での観察や調査、室内での実験や観察をもとにして課題の解決に取り組みます。日常のディスカッション、データの採取や取りまとめ、執筆作業、プレゼンテーションなどの段階を経て、あらゆる職業で必要となる種々の能力が身につけられるようにします。							
関連する科目	昆虫学、自然環境実習、動物分類学、動物生態学、有害動物各論(2021年度開講予定)、動物生理学を履修していることが望ましいです。							
授業の進め方と方法	実験や調査を続けて、得られたデータから卒業論文を執筆できるように指導していきます。その過程で、関連のある文献を読んで考察できるようにアドバイスをします。中間発表会も開催します。							
授業計画	第1回 研究目的 第2回 データ採集法・実験法 第3回 データ採集法・実験法 第4回 データ採集法・実験法 第5回 データ採集法・実験法 第6回 データ採集法・実験法 第7回 データ採集法・実験法 第8回 データ採集法・実験法 第9回 データ採集法・実験法 第10回 データ採集法・実験法 第11回 データ採集法・実験法 第12回 データ採集法・実験法 第13回 データ採集法・実験法 第14回 データ採集法・実験法 第15回 まとめ							
授業の到達目標	・専門的な研究テーマに対して、計画を立てて実験や調査、データの取りまとめ、論文の執筆をすることを通して、計画性、実行力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など社会において活用できる能力を身につけること。							
授業時間外の学修	関連する文献を勉強したり、データ整理をしたりする。							
課題に対する フィードバック	卒業論文の作成過程で、何度も原稿の書き直しのアドバイスをするなどしながら、完成度の高いものにしていく。			評価方法	卒業論文作成に取り組む態度(勤勉さ)や卒業論文研究の完成度			
テキスト	なし							
参考書	参考文献は随時紹介する							
備考	ワード、エクセル、パワーポイントなどのソフトを使えるようにしておく。							

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科	環境園芸学科		
科目名称	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習		単位数	6	配当学年	4 年次	
教員氏名	岡島 直方				学位授与の方針との関連		DP1 (1) DP2 (1) DP2 (2) DP3 (2) DP3 (3) DP3 (4) DP3 (5)		
授業概要	専攻演習で論文やレポートの書き方の基礎を学んだり、見学会や施工練習を行ったりする会話の中で、卒業論文の内容のイメージを作っていきます。本研究室では卒業制作を選ぶ学生が多かったが、その場合も制作内容の段階ごとに、論考を加えていくことが必要となります。専攻演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲが、卒業論文のプロセスとなります。最終プレゼンは学生各個人で行うことになるため、プレゼンまでの間の相談に応じたり、助言をおこなったりします。 【知識・理解の活用】、【汎用的能力、多様な課題発見】								
関連する科目	「造園学概論」に始まる造園専門科目群、「専攻演習Ⅰ」「専攻演習Ⅱ」「専攻演習Ⅲ」「卒業論文」が一連の授業体系を構成しています。								
授業の進め方と方法	スケジュールに合わせて課題に取り組んでもらうなかで、卒論発表会に向けて準備をしていくので、ガイダンスにしたがってその時期に見合った課題を実施していきます。学生の進み具合に合わせて、ディスカッションを行う。								
授業計画	月に一回程度の頻度で、進捗状況をプレゼンテーションする機会を設け、研究室内でそれぞれの学生が何を考えながら、何を行っているのかを報告してもらい、検討を行う。その中でプレゼンの練習を行っていく。								
授業の到達目標	第1段階：論文の書き方と有用性 第2段階：テキストを批評してみる1)~5) 第3段階：論文とその構成1)~2) 第4段階：テーマ設定、組み立て1)~2) 第5段階：各自の関心テーマ確認 第6段階：注の付け方1)~3) 第7段階：実践的文章の検討など1)~3) 第8段階：前期のまとめ 第8段階：実際の研究制作・論文の検討1)~8) 第9段階：各自が課題に取り組む時間と個別指導15回分								
授業時間外の学修	1. 卒論テーマについて、関連する既往研究論文を抽出する能力を身につけます。【課題発見・分析・解決力】 2. 研究の目的を達成するための的確な研究手法を見出す能力を身につけます。【実践力】 3. 分析、考察を遂行し、文書化し、プレゼンテーションを行う力を身につけます。 【専門分野のスキル】 【プレゼンテーション力】								
課題に対する フィードバック	討論や打ち合わせの時に、各自の取り組みに対するコメントを行います。論文の訂正を行います。				評価方法・基準				
テキスト	使用しない。								
参考書	「建築プレゼンの掟」， 高橋正明， 彰国社， 2008 「論文はデザインだ！」， 渡邊研司， 彰国社， 2008								
備考	できるだけ学生の希望に添えるテーマにできるよう調整を行います。								

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]					実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年		4年次	
教員氏名	林 典生					学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) D P3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	幅広い教養と専門性を持ち、様々な人々の立場や文化を理解した上で、柔軟な思考に基づいて建設的な意見および行動により、一緒に問題解決を行える人材を育てるために以下の内容で授業を行う。 1. 研究室の1年半にわたる実践活動を卒業論文としてまとめることで、他の人に受講生自身の実践を受講生自身の言語でつたえられるようにできる。 2. 卒業論文を行う中で、活動現場における利用者や職員との関わりを学ぶと共に、地域社会との良好な関係づくりができるようにする。 3. 研究室における打ち合わせ・準備から活動現場での活動実践を経て片付け・振り返りを経験しながら、活動内容を改善することが出来るようにする。 【知識・理解の活用】、【汎用的能力、多様な課題発見】								
関連する科目	教養科目・教職科目も含めた環境園芸学部開講科目								
授業の進め方と方法	研究室に配属された学生の都合の良い曜日時間を決め、指定した文献を読んで、まとめたものを発表すると共に意見交換を行う。また、意見交換した内容を記録を取り、文章確認の後に配布することで、今後の学生の気づきを促す。まとめた文章について意見交換した内容の記録に基づき文章などを修正して提出する。								
授業計画	1～2. 卒業論文の進め方に関する説明 卒業論文のテーマ決めを行い、活動現場の選択を行う。 3～4. 活動現場との関係づくり 1回目 5～6. 活動現場との関係づくり 2回目 7～8. 活動現場との関係づくり 3回目 活動現場と相談しながら、卒業論文のテーマ決めや実施方法を3回にかけて決定する。 9～10. 活動現場との協議の上で、ガーデニング活動等実践 1回目 活動現場と相談した上で、卒業論文に関する調査を行う。 11～12. 活動現場との協議の上で、ガーデニング活動等実践 2回目 13～14. 活動現場との協議の上で、ガーデニング活動等実践 3回目 15～16. 活動現場との協議の上で、ガーデニング活動等実践 4回目 17～18. 全体的な活動現場との中間打合せ 卒業論文に関する調査のご協力をいただいている活動現場との意見交換しながら、方向性等を確認する。 19～20.活動現場との協議の上で、ガーデニング活動等実践 5回目 活動現場と相談した上で、卒業論文に関する調査を行う。 21～22.活動現場との協議の上で、ガーデニング活動等実践 6回目 23～24.活動現場との協議の上で、ガーデニング活動等実践 7回目 25～26.活動現場との協議の上で、ガーデニング活動等実践 8回目 27～28.活動現場との協議の上で、ガーデニング活動等実践 9回目 29～30.活動現場との振り返り 卒業論文に関する調査のご協力をいただいている活動現場に報告を行い、振り返りを行う。 基本的に個別指導およびグループ指導で実施する。								
授業の到達目標	子どもから高齢者までしょうがいの有無を問わず誰もがガーデニング活動も含む園芸活動でかかわる人のいいところを見つけ、自信につなげていくと共に、みんなで支えあう社会づくりを目指して実践し、実践したことを受講生自身の言語で他の人にわかりやすく伝えることが出来るようにする。								
授業時間外の学修	活動前に打ち合わせ・準備に関する記録を作成すると共に、活動後に振り返りを行って、それを記録にまとめる(目安時間は1時間以内)。まとめた記録についてチェックした上で、活動現場へ報告して、意見交換を行う(目安時間は1時間以内)。								
課題に対する フィードバック	提出物等は随時、本人にコメントをつけて返却するとともに、学内の卒業論文発表会・卒業論文中間発表会を行う。場合により、活動現場関係者向けに活動報告会等の場面も含め、当事者や関係者と意見交換を実施する。			評価方法		卒業論文の内容 60点(卒業論文内容40点、様式が守れているか10点、提出期限に間に合っているか10点)、卒業論文における活動取り組み点 40点(打ち合わせ・準備・反省会参加回数20点、活動現場から見た活動実施時の取り組みの様子20点)、 合計100点で成績評価を行う。			
テキスト	新社会福祉援助の共通基盤上・下巻(第2版) 2009 日本社会福祉士会 中央法規								
参考書	国民の福祉と介護の動向 2016/2017 厚生労働統計協会 Horticulture as Therapy: Principles and Practice 1998 Sharon Simson, Martha Straus CRC Press(都城キャンパス図書館に所蔵あり) 生活行為向上力の見つけ方 (―作業・環境・園芸療法の理論とプログラム) 2015 藤原茂・山口県園芸療法研究会 青海社								
備考									

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス		開設学科		環境園芸学科	
科目名称 [英語名称]	卒業論文 [Graduation Thesis]				実務経験 教員担当		アクティブ ラーニング	○
科目コード	710096	授業形態	演習	単位数	6	配当学年	4年次	
教員氏名	中野 光議				学位授与の方針 との関連	DP1(1) DP2(1) DP2(2) DP3(2) DP3(3) DP3(4) DP3(5)		
授業概要	研究計画に沿って野外調査や室内実験、統計解析を行い、最終的に卒業論文としてまとめます。卒業研究のテーマは、担当教員との相談の上で各自の興味に基づいて選択することができます。							
関連する科目	水辺環境論、環境緑地論、環境調査及び再生論、ビオトープ論、環境緑地論実習、水辺環境論実習、専攻演習Ⅰ、専攻演習Ⅱ、専攻演習Ⅲ							
授業の進め方と方法	研究が上手くいかない時は、速やかに教員に報告・相談してください。							
授業計画	概ね以下の内容で進行します。 1. 研究テーマ・計画の作成 2. 調査・実験 3. データの解析 4. 卒業論文の作成 5. 研究成果の発表							
授業の到達目標	1. 各自の研究テーマについて、国内外の最先端の科学的知見を把握し、学術的に新規性のある卒業研究を完成させる。							
授業時間外の学修	適宜指示します。							
課題に対する フィードバック	不明な点・疑問点については、日常的にアドバイスを、指導を行います。			評価方法		卒業研究に取り組む姿勢、および卒業論文の完成度で評価します。		
テキスト	なし							
参考書	なし							
備考								